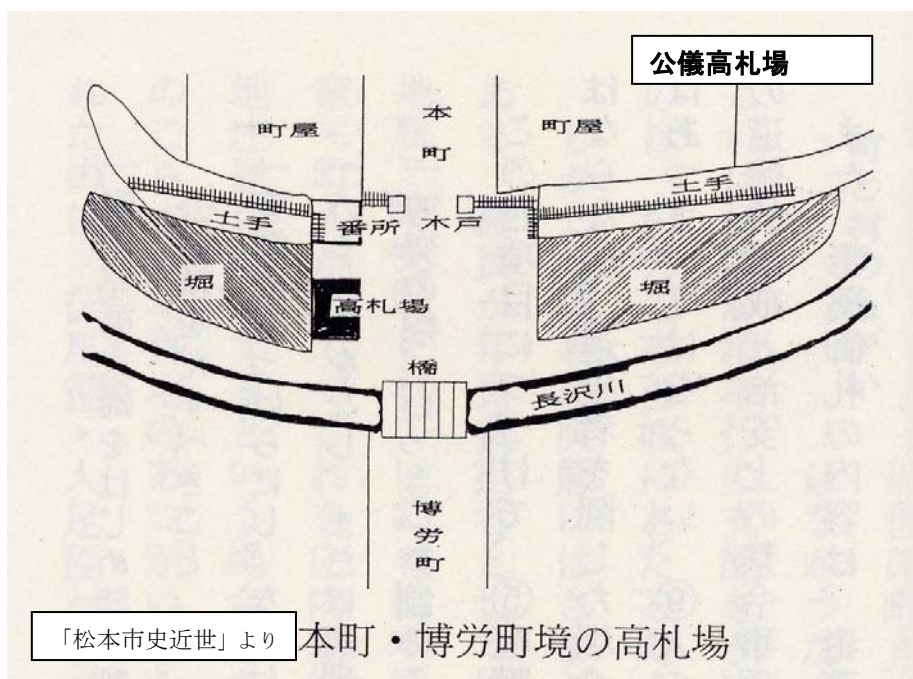


## コラム 高札場の移転

高札場は幕府や藩からの主として法令を人々に周知させるために設けられた施設である。松本本町五丁目にあった高札場は明治・大正・昭和・平成を生き抜きその屋根の部分は「こけらぶき」から「銅<sup>あかがね</sup>ぶき」に改められが現在松本城公園の市立博物館入口西側に立っている。松本の人々が江戸時代の高札場を破壊せずに現在まで残してきたのはなぜか一人ひとり考えてみたいものです。

### 1 江戸時代は本町五丁目にあった。ここは公儀御高札が掲げられていた。



「松本市史近世」より 本町・博労町境の高札場

善光寺街道が、博労町を通り長沢川の橋を渡って本町に入る手前に木戸がありその前が広場になっていた。西側に「公儀高札場」があった。藩が領民に伝達する[自分高札の掲示場]は本町一丁目と伊勢町の角に設置されていた。高札



場の維持運営の普請費用は領主が出し、作業人足は町方が負担した。高札場の周囲は木の柵を巡らし管理を厳しくし、通行者には高札に敬礼することを義務付けていた。

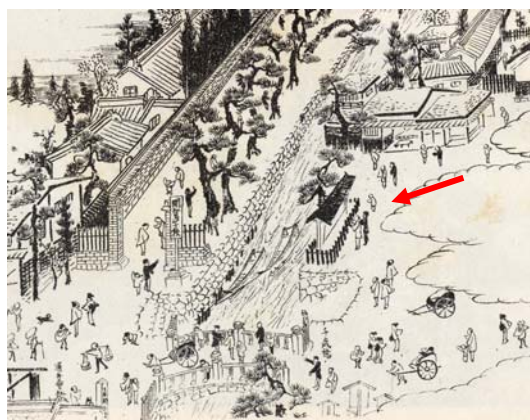
自分高札場【伊勢町通りと本町通りの交差する角】

【元禄期城下絵図より】

2 明治6年の錦絵の高札場

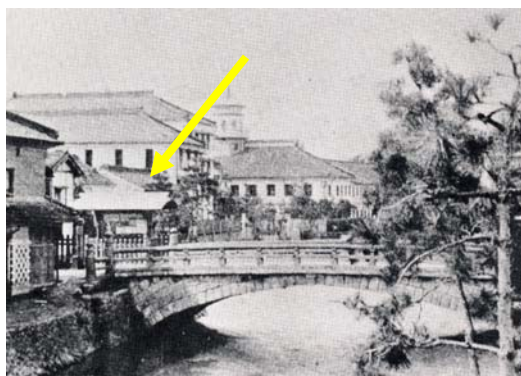


3 明治9年の高札場



明治六年の錦絵は博覧会用の宣伝のために作られたがそこに2つの高札場が並んでいる。また明治9年の絵図にも六九町側大手橋脇に高札場が見える。

4 明治20年代 奥に見えるのは開智学校である。高札場は女鳥羽川南に移されている。

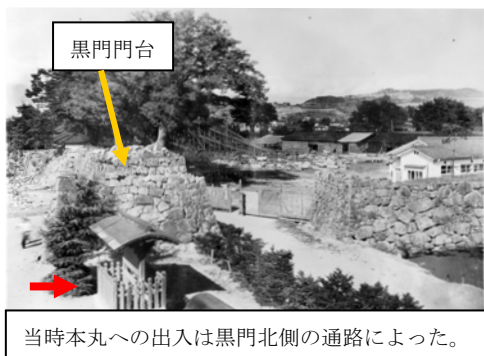


5 戦前の高札場 明治と同じ場所にある

手前が大名町

昭和戦前の千歳橋・本町通り。

6 戦後 天守入場口付近 昭和25年



当時本丸への出入は黒門北側の通路によった。

7 現在



天守の昭和の大修理に伴う二の丸整備により現在地へ